

NEO-BASIC IV工法の4つの特長

① 構造材・耐久性

- 住宅型式性能確定書において、耐震性能を認証取得
- 構造計算により耐震等級2標準対応(プランは限定されますが、等級3にも対応)
- 無垢材よりも約1.5倍の強さを持つ「構造用集成材」を使用し、鉄やコンクリートにも負けない強度を実現
- 断面欠損の大きい箇所にはテナンビーム金物を使用し接合強度を増強
(※屋根材や小屋組み等、一部無垢材を使用する事もあります)

「構造用集成材」の強度は無垢材の約1.5倍! シックハウス対策も安心

集成材とは、無垢材の節や割れなどの欠点を取り除き、良質な部分を積層することで、高い強度と安定性を実現した工業用木材です。強度は無垢材の約1.5倍。反りや曲がりなどが少なく、シックハウス新法でも最高等級(F☆☆☆☆)の安全性が認められています。



集成材

集成材は、性能表示あり、形状変化が起こりにくい。



集成材は、強度・含水率・接着性能などの部材の性能表示があります。また、品質のバラツキがありません。



無垢材

無垢材は、説明・表示なし。

無垢材は、強度・含水率など表示がほとんど無く、品質にもバラツキがあります。



断面欠損の防止には金物接合を使用。

左木片

在来軸組工法の接合部分(メス仕口)切り欠き量が多い(大きい)

右木片

金物工法(金物接合)の接合部分(メス仕口)切り欠き量が少ない(小さい)



実際の切り欠き例

木材の本来の強さを残したままで、金物による強い接合と接合部分の引き抜けを防止して、骨組み全体の安定強化を実現します。

